

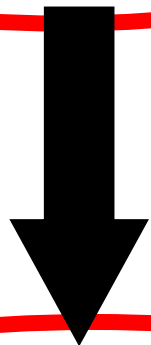
関係代名詞④

例①

The man was Takuya.

その男性はタクヤだ。

この文から、



The man

を抜き出す (後の was Takuya は無視)

この

The man

↑ だけに着目して

私は彼をマサシだと思った。

↑ という英文を作ると、

I thought he was Masashi.

となる。

↑ この I thought he was Masashi.

という文は、

The man に関する文なので、

The man の直後にくっつける。

すると、

The man I thought **he** was
Masashi.

となり、

was Takuya を戻すと

The man I thought he was Masashi
was Takuya. となる。

この I thought he was Masashi.
という文に、

The man を修飾させるには、このままでは
ダメなので、

以下の表に基づいて関係代名詞
に変換する。

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
彼	he	his	him	his
関係代名詞	who	whose	who	whose

↑ he に対応する関係代名詞は
who なので

The man I thought who was
Masashi was Takuya. となる。

関係代名詞は常に修飾する語句の直後に置くので、

The man I thought who was
Masashi was Takuya.

The man who I thought was
Masashi was Takuya. となる。

これを

関係代名詞の後ろから訳すと

(関係代名詞そのものは訳さない)。

関係代名詞 who の後ろから

The man who I thought was masashi.

男性

私
が
マ
サ
シ
だ
と
思
っ
た

「私がマサシだと思った男性」となって、

The man who I thought was

Masashi was Takuya. となる。

私がマサシだと思った男性はタクヤ
だった。

となるね。

また、この場合の who は、

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
彼	he	his	him	his
関係代名詞	who	whose	who	whose

↑ **主格**の関係代名詞だから

省略できないように思える。しかし、実はこの場合の who 省略できる (連鎖関係詞節という)。

なので、

The man I thought was Masashi
was Takuya. としても OK だ。

連鎖関係詞節の場合に主格関係代名詞を省略できる理由を説明するのは少し難しい。

なので、いくつかパターンを検討して慣れていこう。

例②

The history turned out to be wrong.

その歴史は誤りだと判明した。
この文から、

The history

※turned out to be ~
~だと判明する

を抜き出す

(後の turned out to be wrong は無視)

この **The history**

↑ だけに着目して

私はそれを真実だと思っていた。

↑ という英文を作ると、

I thought **it** was true.

となる。

↑ この I thought **it** was true

という文は、

The history に関する文なので、

The history の直後にくっつける。

すると、

The history I thought it was
true となつて、

turned out to be wrong を戻すと

The history I thought it was true
turned out to be wrong.

となる。

この I thought it was true.

という文に、

The history を修飾させるには、このまま
ではダメなので、

以下の表に基づいて関係代名詞
に変換する。

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
それ	it	its	its	its
関係代名詞	which	whose	which	whose

↑ it に対応する関係代名詞は
which なので

The history I thought which was true
turned out to be wrong. となつて、

関係代名詞は常に修飾する語句の直後に置くので、

The history I thought which was true turned out to be wrong.

The history which I thought was true turned out to be wrong.

となる。

これを

関係代名詞の後ろから訳すと

(関係代名詞そのものは訳さない)。

関係代名詞 which の後ろから

The history which

I thought was true.

私が真実だと思っていた

歴史

「私が真実だと思っていた歴史」となって、

The history which I thought was
true turned out to be wrong.

私が真実だと思っていた歴史は
誤りだと判明した。

となるね。

この場合の which は、

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
それ	it	its	it	its
関係代名詞	which	whose	which	whose

↑ 主格の関係代名詞だから、

本来は省略できないけど、この文は連鎖関係
詞節だから省略できる。なので、

The history I thought was true
turned out to be wrong.

としてもOKだね。

※関係代名詞はまだ検討する箇所があるんだけど、少し細かくなるので、後回しにしよう。そこで、今回は関係代名詞に似た**関係副詞**を検討しよう。関係代名詞の簡易バージョンみたいなものだから、分かりやすいと思う。

→**関係副詞①**につづく